ことを学ばしめつゝある。
かくて地域工代の関係とその関係は産業工代の関係しないし地方に於いては
産業工代の存在しないところに於ては副次的な性質をもつと共に地域工代
に於ては闘争的な産業工代に他産業工代を刺戟し協励し共通的
闘争に共力せしむべく働きかけるやうにしなければならぬ。
尚かくての場合に於てもそうであるがかゝる組織を一切の関係で考慮せず
にアテハメやうとすることは硬化した指導方針であって何つは一地方に於て
今尚産業工代が存在してゐないことが或は一、二の産業にはあっても他
産業には存在しておらぬ所者にあってはまづ地域的工代を関係しそこから
産業工代を両組織する方法が採用されなければならぬ、
かくて会で大会されては地域工代と産業工代の関係を単に並列的に
「地方的又は産業的」工代の関係を以て想定されたに止ったまゝは今やに
上の如く両者の関係をより具体的に理解しこれを指導しなければ人々の

である
寧ろ吾々に分かる如き具体的闘争と工代会議の関係に於てすでに
何日迄に未だ経験と成功とを収め得たのである。かくして積極的に活溌に
展開しはじめた産業的闘争綱領を統一的要求の決定とそれによる闘
争の煽動とを意識的に開始し努力しなければならぬ。かゝる煽動あってこそ始
めて産業的闘争産業的工代がその完全なる形に於て展開されるのである
それ等の経験がこれを示すが如くにかゝることが尚未だ不足しているために重要
なる契機を捉へ得ずして終ることもあり且つ経験するところである

(2)

地域的工代が各産業共通の闘争綱領による為めに関係求めてあることは既に述べた如くであ
るかゝる闘争綱領として全面的共通闘争綱領のみを煽動してはならぬ。
の諸綱領とする基本の諸は已に吾等地方又は地域に於ける直接的な問題——
工場設備改善、労働時間・住宅等に関する各工場の具体的出来事